

Ⅲ. 全体構想

1. 将来の香取市の姿

1) まちづくりの基本理念、香取市の将来都市像

「まちづくりの基本理念」、「香取市の将来都市像」は、香取市のまちづくりの基本的な考え方や将来に向けて目指すべき香取市の姿を示したものです。

「香取市総合計画」との整合を図り、「まちづくりの基本理念」、「香取市の将来都市像」を以下のとおりとします。また、「香取市の将来都市像」に、将来の目指すべき姿を香取市の将来都市像のイメージとして示します。

(1) まちづくりの基本理念

市民協働による 暮らしやすく 人が集うまちづくり

(2) 香取市の将来都市像

元気と笑顔があふれるまち

一人ひとりの市民が輝く 活気みなぎる やすらぎの郷 香取

<香取市の将来都市像のイメージ>

- ・ 4つの地域（区）のこれまでの変遷や地域特性を活かしながら、人と自然が共生した魅力ある景観を持つ香取市の形成を目指します。それとともに、地域に不足している機能を相互に補完するなど、地域相互の連携の強化を図り、すべての市民が充実感を抱き、安全で安心して暮らせる香取市の形成を目指します。
- ・ 成田国際空港と鹿島臨海工業地帯の中間に位置する立地特性を活かした産業の活性化、水郷や歴史的な町並み等の地域資源や市の基幹産業である農業を活かした交流の場の創出等、活気とにぎわいのある都市を目指します。
- ・ 佐原、小見川の市街地は、生活機能や交流機能等が充実した利便性の高い、良好な居住環境を持つ住宅地の形成を目指します。市街地の郊外部は、自然環境や農業環境との調和を図りつつ、市の活力を生み出す土地利用を計画的に誘導していきます。また、既存の農村集落地等は、周辺環境と調和したゆとりのある居住環境の形成を目指します。

2) まちづくりの目標

「まちづくりの基本理念」、「香取市の将来都市像」を踏まえ、将来の目指すべき香取市の姿を実現していくための目標を次のとおりとします。

○自然や地域資源を活かしたまちづくり

地域の特性である良好な自然環境や歴史的資源等と調和のとれた土地利用を進めます。また、これらの資源と共生した美しいまちづくりを進めます。

○活気、にぎわい、多様な交流のあるまちづくり

豊かな自然環境や歴史文化を活かした観光の振興、農村と都市の交流の推進、立地特性を活かした産業の誘致等、活力を創出するまちづくりを進めます。また、商業業務等の都市機能の充実を図り、利便性の高いまちづくりを進めます。

○安全・安心・快適に暮らせるまちづくり

保健・医療・福祉等の機能の充実を図るとともに、市内の都市機能を有機的に連携し、利用できる道路整備や公共交通の充実を図ります。また、災害や防犯に強いまちづくりを進め、誰もが安全・安心・快適に暮らしつづけられるまちづくりを進めます。

○良好な居住環境を持つまちづくり

市街地は多様な都市サービスが享受できる利便性の高い居住環境の形成を進めます。市街地の郊外部は自然環境や農業環境と調和したゆとりのある居住環境の形成を進めます。

○市民、行政の協働による効果的なまちづくり

市民、行政が協力し、それぞれの役割を果たしながら、まちづくりを進めていきます。また、既存の公共施設や地域資源及び自然環境等を有効に活用した効率的で効果的なまちづくりに努めます。

3) 香取市の将来都市構造

香取市の変遷や特性を踏まえ、将来のまちの骨格を示す香取市の将来都市構造を「拠点」、「軸」、「ゾーンなど」により設定します。

(1) 拠点

市民の生活や都市活動及び交流の中心となる場所です。

①都市拠点

香取市の都市活動や居住の中心となる場所で、佐原市街地と小見川市街地とします。また、都市拠点において、生活機能や交流機能が集積した場所を「核」とします。

[核の構成]

- 定住核：市民生活に関わりのあるさまざまな機能の集積を図る場所
- コミュニティ型商業核
：主に近隣住民の生活や観光客等の来訪者へのサービスを提供する身近な商業業務機能と居住機能の集積を図る場所
- 広域型商業核：主に広域的な圏域を持つ商業業務機能の集積を図る場所
- 観光交流核：都市拠点に位置する観光交流拠点

-1. 都市拠点（中心拠点）：佐原市街地及び市街地周辺

- ・定住核：市役所周辺
- ・コミュニティ型商業核：佐原駅南側周辺
- ・広域型商業核：本宿耕地地区
- ・観光交流核：小野川周辺、水の郷さわら

-2. 都市拠点（副拠点）：小見川市街地及び周辺

- ・定住核：小見川駅周辺
- ・広域型商業核：野田・本郷地区
- ・観光交流核：小見川城山公園周辺、くろべ運動公園周辺

②地区拠点

山田区、栗源区において、地域を担う行政サービスや生活サービス機能等が集積する場所です。

- ・山田区：区事務所周辺(行政サービス)、府馬(生活サービス)
- ・栗源区：区事務所と岩部交差点周辺を含む範囲(行政サービス、生活サービス)

③産業拠点

産業機能が集積する場所で、小見川工業団地を位置づけます。

④観光交流拠点

観光資源となる自然環境や歴史的資源等を中心とする場所で次のとおりとします。

[佐原区] 香取神宮周辺、小野川周辺、与田浦周辺、加藤洲十二橋周辺、水の郷さわら、横利根閘門ふれあい公園周辺

[小見川区] くろべ運動公園周辺、小見川城山公園周辺、まほろばの里案内所周辺

[山田区] 府馬の大クス周辺、橘ふれあい公園周辺、鳩山地区の観光農業施設周辺

[栗源区] 栗源運動広場周辺、道の駅くりもと周辺

⑤都市活性化拠点

香取市の新たな活力を創出する、一団の土地利用が可能な場所で、佐原香取IC周辺、阿玉台地区周辺、大関地区とします。

(2) 軸

都市間や地域間を結ぶ道路など、交流や都市活動を支える連続した空間です。

①都市連携軸

広域的な連絡性、または、成田国際空港や鹿島臨海工業地帯を連絡する連続した空間で次のとおりとします。

東関東自動車道、国道51号、国道356号バイパス、成田小見川鹿島港線、利根川、鉄道（JR成田線、JR鹿島線）

②地域連携軸

地域間や拠点を連絡する連続した空間で次のとおりとします。

国道356号（国道51号以東区間）、東総有料道路～大栄栗源干潟線、旭小見川線、佐原山田線、佐原八日市場線、佐原椿海線、交流促進連絡道路、香取市横断道路

③沿道利用検討区間

都市連携軸、地域連携軸とした道路で、沿道の都市的土地利用の進展が想定される区間で次のとおりとします。

-1. 都市連携軸における沿道利用検討区間

国道51号、成田小見川鹿島港線

-2. 地域連携軸における沿道利用区間

国道356号〔佐原市街地と小見川市街地を結ぶ区間〕、
東総有料道路～大栄栗源干潟線〔佐原八日市場線以南区間〕、
佐原山田線〔佐原市街地～成田小見川鹿島港線の区間〕、
旭小見川線〔小見川市街地～山田区府馬地区周辺の区間〕

(3) ゾーンなど

大枠の基本的な土地利用等を示します。

①ふるさと交流・定住ゾーン

農地や農村集落地等で形成される地域とします。

②水と緑の環境保全・活用ゾーン

利根川、与田浦周辺等の水辺空間や市南部の良好な緑を形成する山林等とします。

③農村集落地等エリア

「ふるさと交流・定住ゾーン」や「水と緑の環境保全・活用ゾーン」において、まとまりのある農村集落地等が形成されている地域とします。

■香取市の将来都市構造図

